

国土交通省

〇現道局所対策

事業名 : 国道20号 道路防災点検要対策箇所

事業主体 : 国土交通省 相武国道事務所

事業期間 : 令和2年度より順次工事に着手

事業内容 : 道路防災点検において対策が必要な16箇所のうち、相模原市内では4箇所の法面对策工、八王子市内では1箇所の落石防護柵工の対策工事を令和3年度補正予算により、R4年2月～R5年3月に実施中。更に②箇所については、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策により、令和4年度補正予算により工事を継続実施予定。

残る箇所については調査・設計・関係機関協議を実施中。



■ : 施工中箇所

■ : 令和4年度補正予算活用施工予定箇所



① はちおうしみなみあさかわまち
八王子市南浅川町
斜面崩落防止対策工（重力式擁壁＋落石防護柵工）



② さがみはらしみどりおの
相模原市緑区吉野
斜面崩落防止対策法面工（法枠工）

〇交通強靱化に向けた効果

- 要対策箇所の対策実施により、被災リスクを低減し、強靱化が図られる。

国土交通省

〇現道局所対策

事業名 : 国道20号(東京都区間) 橋梁補修対策

事業主体 : 国土交通省 相武国道事務所

事業期間 : 令和3年度より順次着手(現在工事中)

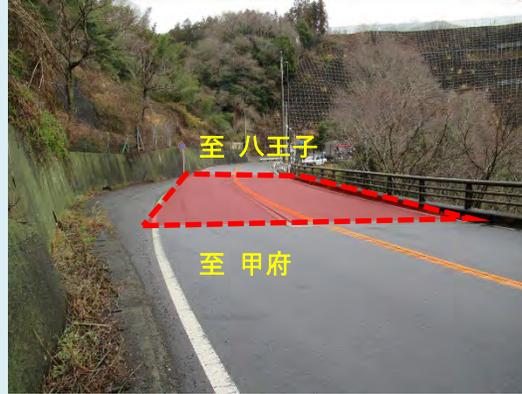
事業内容 : 橋梁定期点検でⅢ判定となった大垂水橋等、全7箇所の橋梁補修について、6箇所では施工中。
残る1箇所は調査中。



 : 施工予定箇所



① だいにさんどう
第2栈道橋
【橋梁補修】主桁補修、支承補修等



② だいちさんどう
第1栈道橋
【橋梁補修】主桁補修、支承補修等



③ おおたるみ
大垂水橋
【橋梁補修】主桁補修、床版補修等

〇交通強靱化に向けた効果

- 橋梁補修により、被災リスクの低減し、強靱化が図られる。

国土交通省

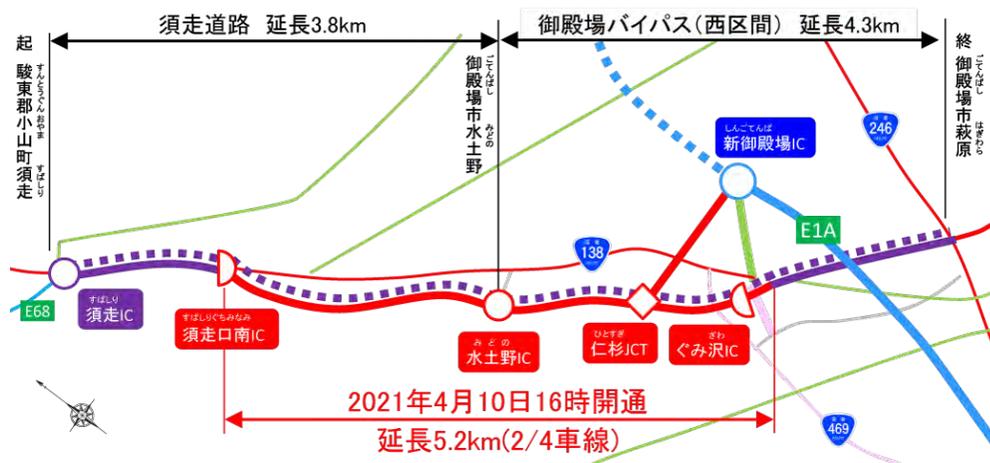
□広域迂回

事業名：R138須走道路・御殿場バイパス（西区間）

事業主体：国土交通省 沼津河川国道事務所

事業区間：須走道路・御殿場バイパス（西区間）

事業内容：当該道路は、静岡県駿東郡小山町須走から静岡県御殿場市萩原に至る延長8.1kmのバイパス。本バイパスは、東富士五湖道路を經由して中央自動車道と新東名高速道路をつなぐ広域ネットワークを形成するとともに、地域活性化の支援（観光）、交通渋滞の緩和、交通事故の削減、災害に強い道路機能の強化などの効果を見込んでいる。新東名高速道路（新御殿場IC～御殿場JCT）と併せ、2021年4月10日に開通。



出典：2021年3月10日記者発表資料
（中部地方整備局 沼津河川国道事務所, 中日本高速道路株式会社東京支社, 静岡県）

NEXCO中日本

□現道局所対策

事業名：台風19号 のり面被災箇所復旧事業（中央自動車道）

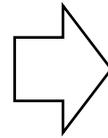
事業主体：中日本高速道路株式会社

事業期間：令和3年7月本復旧作業完了

事業内容：令和元年台風19号において被災した切土のり面等について、復旧作業（不安定土塊の撤去、水抜き孔の設置、コンクリート吹付、のり面補強アンカーの設置等）を実施し、現場での復旧作業を完了。



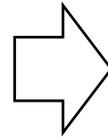
被災・復旧状況(与瀬地区 43.8 KP)



被災状況(R1.10)

復旧作業完了状況(R3.7)

被災・復旧状況(小仏地区 38.1 KP)



被災状況(R1.10)

復旧作業完了状況(R3.7)

交通強靱化に向けた効果

- 復旧作業完了により道路構造の機能を回復。

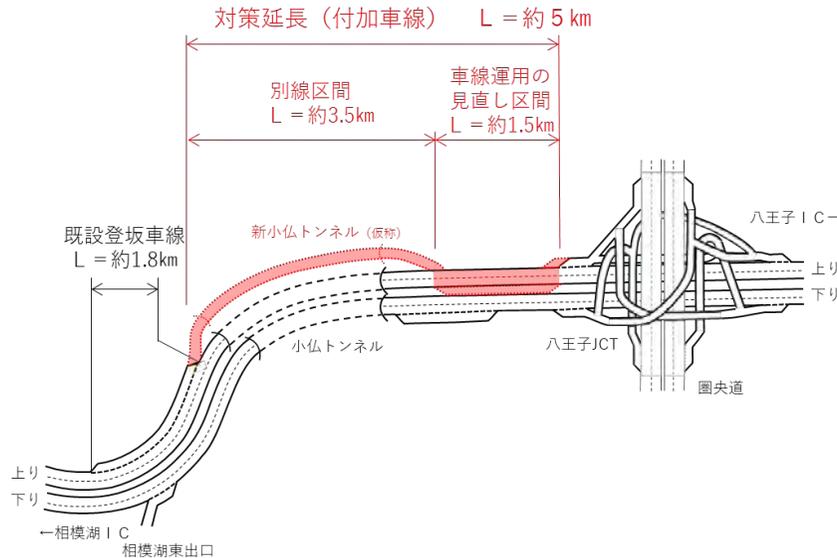
□現道局所対策

事業名：小仏トンネル付近（上り線）渋滞対策事業（中央自動車道）

事業主体：中日本高速道路株式会社

事業期間：平成27年8月より事業実施中

事業内容：国道20号に並行する中央道の道路機能強化のため、既設中央道との別線トンネル構築や車線運用の見直しによる付加車線の設置を実施中（約5 km）。



交通強靱化に向けた効果

- 国道20号、既設中央道等の並行区間が被災した場合、別線区間を活用した迂回による交通確保に寄与。



参考：中央道渋滞対策における、AIによるソフト対策としての取り組み（実証実験）

過去の交通量、速度、渋滞や降雨量などと、当日の交通量や降水量との関係性から所要時間の予測を行う。

※中央道上り線（東京方面）大月ICから八王子JCTにて実証実験として実施

- リアルタイム（毎正時）に4時間後までの渋滞予測を提供
- 渋滞実績のみからの予測と比べて精度が向上することがわかっている



□広域迂回

事業名：新東名高速道路

管理者：中日本高速道路株式会社

事業区間：伊勢原大山IC～御殿場JCT

事業概要：新東名高速道路の一部を担う延長約45kmの建設。

【事業の進捗状況】

■伊勢原大山IC付近



令和4年5月撮影

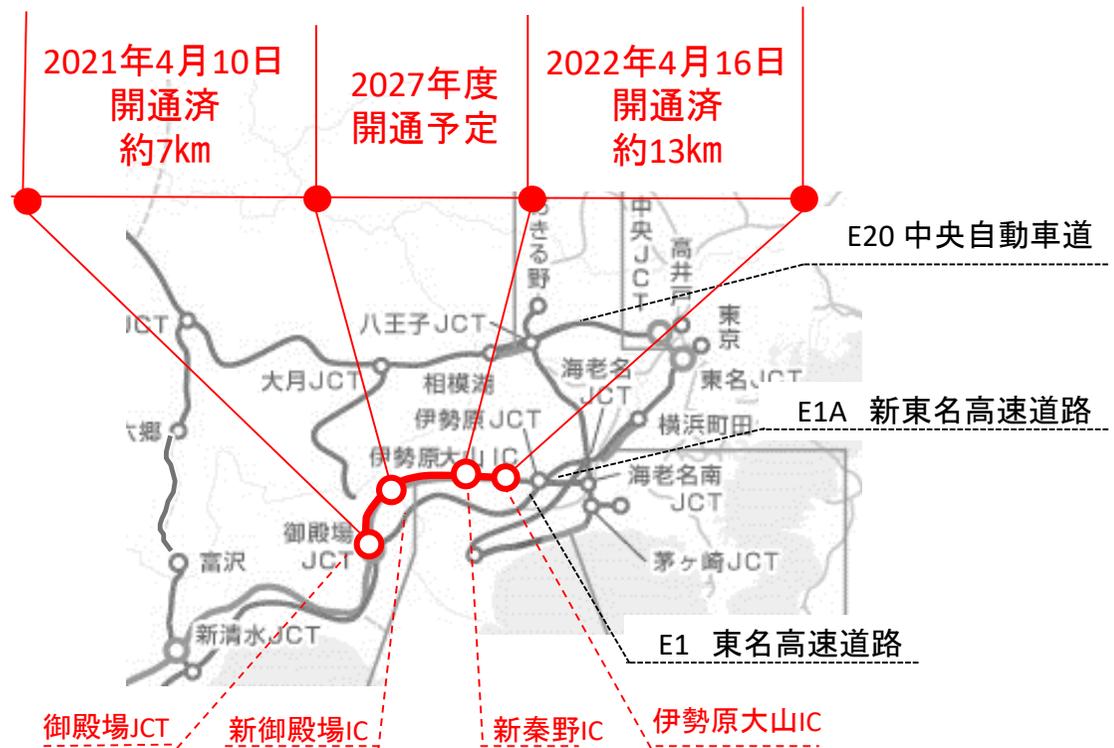
■新秦野IC付近



令和4年4月撮影

【開通・事業の見通し】

- 伊勢原大山IC～新秦野IC（約13km）：2022年4月16日開通済
- 新秦野IC～新御殿場IC（約25km）：2027年度開通予定
- 新御殿場IC～御殿場JCT（約 7km）：2021年4月10日開通済



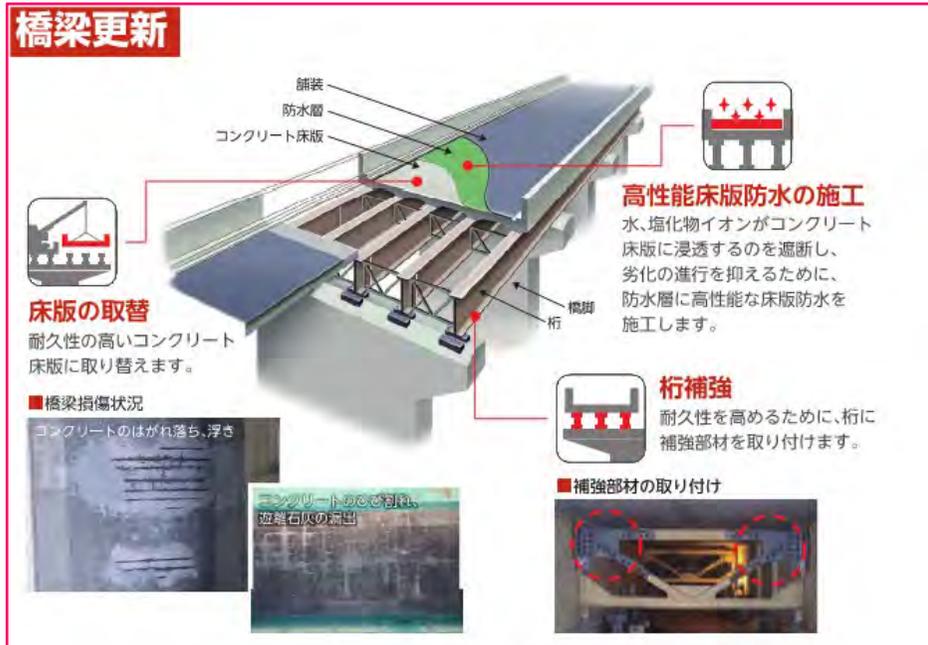
□現道局所対策

事業名：リニューアル工事

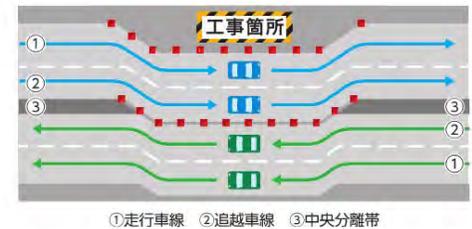
事業主体：中日本高速道路株式会社

事業期間：平成27年3月より事業実施中

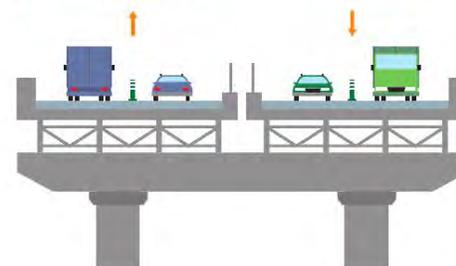
事業内容：中央道は全線開通から40年が経過。これまでの定期点検等により得られた知見を踏まえ、更新事業等を追加するとともに、更新工事が与える社会的影響の低減に取り組んでいく。



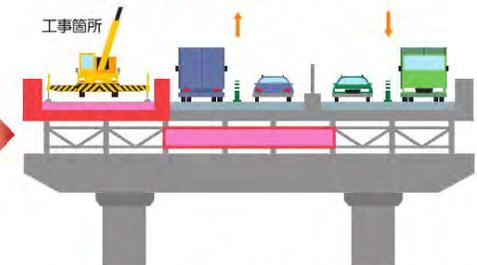
交通量が多く工事による社会的影響が大きい区間での施工にあたり、工事中の渋滞抑制のため現況の車線数を確保するなどさまざまな工夫を行っていく。



通常時の交通運用



更新工事中の交通運用



適用例：E1 東名 多摩川橋、E20 中央道 多摩川橋、E1 名神 長良川橋など

交通強靱化に向けた効果

- 建設当初と同等、またはそれ以上の性能や機能を回復することで高速道路をこれからも長く健全に保つ

□現道局所対策

事業名 : 台風19号応急復旧その他工事

事業主体 : 東日本旅客鉄道株式会社

事業期間 : 令和元年10月（着工）
令和2年9月（完了）

事業内容 : 砂防堰堤しゅん濇、土砂止めスクリーン復旧
吹付格子砕工施工、土砂止め柵新設
排水設備整備



被災状況



①しゅん濇・土砂止めスクリーン復旧



被災状況



②吹付格子砕工・土砂止め柵設置



被災状況



③吹付格子砕工・排水設備整備

○交通強靱化に向けた効果

- のり面吹付格子砕工施工や水路しゅん濇等による降雨防災強度の向上

JR東日本

□現道局所対策

中央線沿線の強靱化対策

東日本旅客鉄道では、首都圏と甲信越を結ぶ中央本線については重要路線と位置付けて、これまでの間、降雨防災対策を中心に安全安定輸送を確保する施策を行ってきた。

今後も、激甚化する台風や降雨、地震や降雪などの自然災害に備えた対策を計画し、実施していく。

斜面对策工事

コンクリートフレームによる崩壊対策



土砂対策工事

土石流対策としてスクリーン設置



洗堀対策工事

コンクリートブロックによる河床洗堀対策



耐震補強工事

コンクリート巻きによる耐震補強



落石対策

ワイヤーネットによる落石防護



倒木対策

危険木の伐採

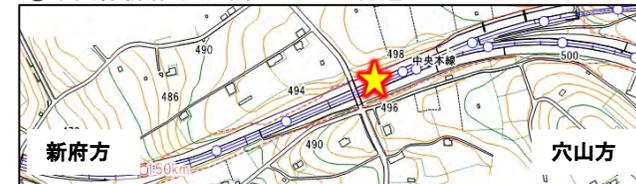


倒竹ワイヤー



<広域図>

①中央線新府・穴山間150k000m付近



②中央線塩崎・萁崎間142k440m付近



③中央線初狩・笹子間96k500m付近



④中央線高尾・相模湖間61k700m付近(2022年度追加工事)



口現道局所対策

- 事業名：①新府・穴山間150k000m付近(左)のり面工新設工事
 ②塩崎・萁崎間142k440m付近(下)のり面工その他新設工事
 ③初狩・笹子間96k500m(右)落石対策新設その他工事
 ④高尾・相模湖間61k700m(右)のり面工新設その他工事 ※新規

事業主体：東日本旅客鉄道株式会社

事業期間：①2021年 6月着工 2022年 9月完了

②2021年11月着工 2022年 10月完了

③2021年 9月着工 2022年 1月完了

④2022年10月着工 2022年 12月完了

事業内容：(①、②、④) 降雨等により、のり面上の浸食や、やせが認められる未対策ののり面工について、構造物によるのり面の防護を計画し防災強度を図る。
 (③) 落石検査区間において用地外からの十分な落石対策を行うことにより、安全レベルを向上することを目的とする。

【のり面工新設工事(①、②、④)】



①新府・穴山間
(2022年9月完了)



②塩崎・萁崎間
(2022年10月完了)



④高尾・相模湖間
(2022年12月完了)

【落石対策工事(③)】



③初狩・笹子間
(2022年1月完了)



落石重点箇所

交通強靱化に向けた効果

- ・ 構造物によるのり面及び落石重点箇所に防護を行う事により防災強化が図れることで、輸送障害の防止を図る。

相模原市

〇現道局所対策

事業名 : 国道413号道路災害防除工事

事業主体 : 相模原市

事業期間 : 令和元年年10月より順次工事に着手

事業内容 : 道路防災カルテ点検による定期点検の結果から、国道413号で対策を要するとした箇所について、令和元年度から災害防除工事を実施し、既に6箇所の対策工事が完了した。
引き続き、令和4年度は1箇所の斜面防災対策を施工中である。令和5年度には2箇所、令和6年度以降に4箇所の対策工事を行う予定である。

〇対策済み箇所状況



モルタル増厚
ポケット式ロックネット

〇交通強靱化に向けた効果

- ・災害時に、国道20号を補完する必要がある、国道413号の脆弱箇所の対策を実施し、機能強化を図る。



〇令和4年度以降 対策予定箇所一覧

要対策箇所	予定工種	施工時期
①	モルタル吹付 ノンフレーム	R3年度 設計委託 R4年度 施工中
②	植生工	R3年度 設計委託 R6年度以降 工事予定
③	待受け柵	R3年度 設計委託 R5年度 工事予定
④	待受け柵	R4年度 設計委託 R6年度以降 工事予定
⑤	待受け柵	R3年度 設計委託 R5年度 工事予定
⑥	ロープ掛け	R3年度 設計委託 R6年度以降 工事予定
⑦	待受け柵	R3年度 設計委託 R6年度以降 工事予定

山梨県

〇現道局所対策

事業名：国道413号 道路災害防除工事（緊急道路整備修繕費）

事業期間：令和元年度～令和3年度（R3完了）

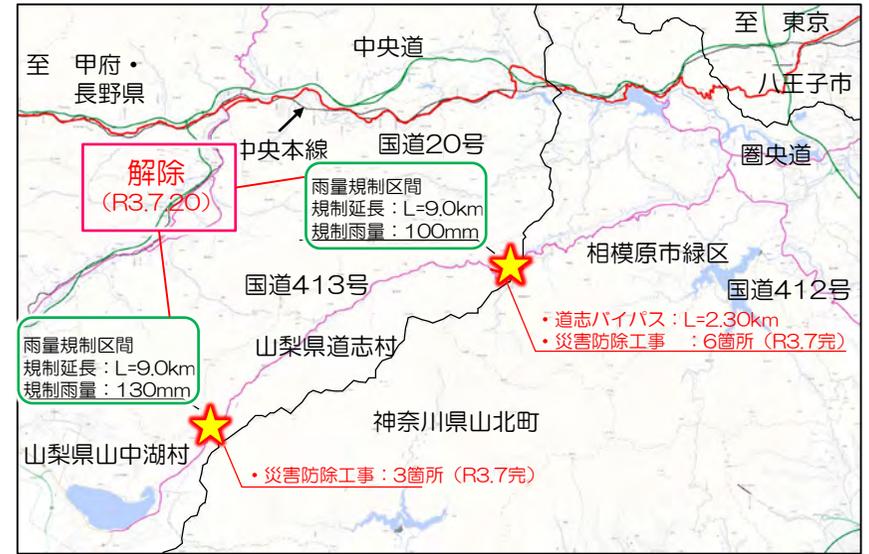
事業内容：雨量規制区間内の要対策箇所（9箇所）の対策が完了し、雨量規制を解除した。

事業名：国道413号 道志バイパス（緊急道路整備改築費）

事業期間：平成25年度～

事業内容：L=2,300mのバイパス事業による狭隘箇所などの解消。

- ・1号トンネル工事や橋梁下部工事を実施中



災害防除工事

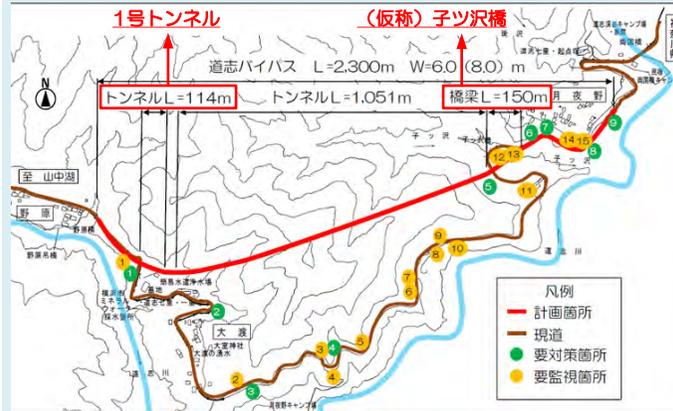


対策前



対策後

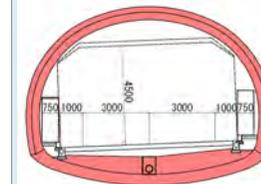
道志バイパス



国道413号 現道

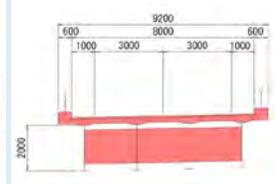


国道413号 工事中



トンネル標準横断面

1号トンネル



橋梁標準横断面

（仮称）子ツ沢橋

〇交通強靱化に向けた効果

- ・国道20号が被災した場合に備え、国道413号の脆弱箇所を解消し、代替性を確保。

2. 交通強靱化に向けた取り組み状況【報告】

B：復旧作業の効率化

2 交通強靱化に向けた取り組み状況【報告】相模原市・山梨県

B：復旧作業の効率化

(2) B：復旧作業の効率化

□ 国道413号の強靱化に関する協定（相模原市，山梨県）

締結日：令和2年7月7日

設置目的

この協定は、国道413号が両県市にとって住民生活や物流・経済活動等を支える重要な道路であることに鑑み、災害発生時にもその機能を迅速に回復する、強くしなやかな道路となるよう、山梨県及び相模原市が相互に連携することを目的とする。

協定締結の対象範囲



出典：国道413号の強靱化に関する協定
/相模原市HPより抜粋



締結の様子（左から、山梨県知事 長崎幸太郎、相模原市長 本村賢太郎）

訓練の実施

□ 山静神土木部局相互応援訓練の実施（R4.11.28）

目的：山梨県や、神奈川県、相模原市、静岡県による合同防災訓練を実施し、災害時における広域応援体制を確立することを目的とする

【災害想定】

令和4年11月26日（土）午前9時に、山梨県峡南及び富士・東部地域にて震度6強以上の地震が発生し、各県にて甚大な被害が発生

【訓練の流れ】

- (1) 被災県から応援県に対して、衛星回線等により、応援要請
- (2) 応援県から被災県へ、資材提供等を行う
- (3) 被災県にて、受け入れを行う

	(応援事務所)	(被災事務所)
静岡⇄山梨	(静)富士土木事務所	— (山)峡南建設事務所 身延支所
神奈川⇄静岡	(神)県西土木事務所	— (静)熱海土木事務所
	(神)県西土木事務所小田原土木センター	— (静)沼津土木事務所
神奈川⇄山梨	(神)厚木土木事務所津久井治水センター	— (山)富士・東部建設事務所
	(神)相模原市津久井土木事務所	— (山)富士・東部建設事務所 吉田支所
	(神)厚木土木事務所津久井治水センター	— (山)富士・東部建設事務所 吉田支所
	(神)相模原市津久井土木事務所	— (山)富士・東部建設事務所 吉田支所



情報伝達訓練の様子

実動訓練を通し、

- ・関係者間での被災状況・交通情報を早期に共有する工夫
- ・協力体制の構築を行い、復旧作業の効率化向上

2 交通強靱化に向けた取り組み状況【報告】

B：復旧作業の効率化

(2) B：復旧作業の効率化

□令和4年1～2月の山梨県内及び都内降雪時に情報連絡体制を構築

降雪の概要（令和4年2月9日～降雪対応実績）

- 令和4年2月10日（木） 4時13分 山梨県に大雪注意報発令
- ※ 各情報連絡本部会議の立ち上げに伴い、Teamsによるweb会議接続し、情報を共有
- 令和4年2月10日（木） 6時00分 国道20号大月橋東詰交差点、柏尾交差点にて冬用タイヤチェック開始
- 令和4年2月10日（木） 12時30分 中部横断自動車道（富沢～六郷）等通行止め
- 令和4年2月10日（木） 10時34分 山梨県に大雪警報発令
- 令和4年2月11日（金） 4時30分 冬用タイヤチェック終了

国道20号大月市大月地先
（タイヤチェック実施状況）



主な対応

- Teams等による情報連絡本部の設置

山梨・静岡雪水会議

メンバー	
関東地整	甲府河国
	相武国道
中部地整	沼津河国
	静岡国道
NEXCO 中日本	大月HSC
	甲府HSC
	富士HSC
山梨県	
山梨県警本部(※1)	

- 令和4年1月6日（木）～7日（金）
 - 6日12時30分 甲府河川国道雪害対策支部設置（注意体制）
 - 山梨・静岡情報連絡本部会議立ち上げ（甲府河川国道）
- 令和4年2月9日（水）～11日（金）
 - 10日 0時10分 甲府河川国道雪害対策支部設置（注意体制）
 - 山梨・静岡情報連絡本部会議立ち上げ（甲府河川国道）
 - 10日 8時30分 甲府河川国道雪害対策支部設置（警戒体制）
- 令和4年2月13日（日）～14日（月）
 - 13日10時00分 甲府河川国道雪害対策支部設置（注意体制）
 - 山梨・静岡情報連絡本部会議立ち上げ（甲府河川国道）
 - 13日13時00分 甲府河川国道雪害対策支部設置（警戒体制）

- ※道路状況、
タイヤチェック
予定等情報共有
- ※道路状況、通行止
予定等情報共有
- ※道路状況、
タイヤチェック
予定等情報共有

※1：セキュリティ上、Teamsもメールも不可のため、電話で情報共有

2 交通強靱化に向けた取り組み状況【報告】 山梨県

B：復旧作業の効率化

(2) B：復旧作業の効率化

□基本方針④「関係者間での被災状況、交通情報を早期に共有する工夫」及び、基本方針⑤「復旧工事協議に関する協力体制の構築」の新たな取り組みとして、令和4年8月に「Web会議システム及びドローンを活用した情報伝達訓練」を実施

訓練の概要

□課題・目的

- ・大規模災害が発生した場合、現場の被害状況を迅速かつ正確に把握し、応急対応を速やかに指示する必要がある
- ・総合防災情報システムにおいて、被害の場所や概要は確認できるが、詳細な情報は把握できない

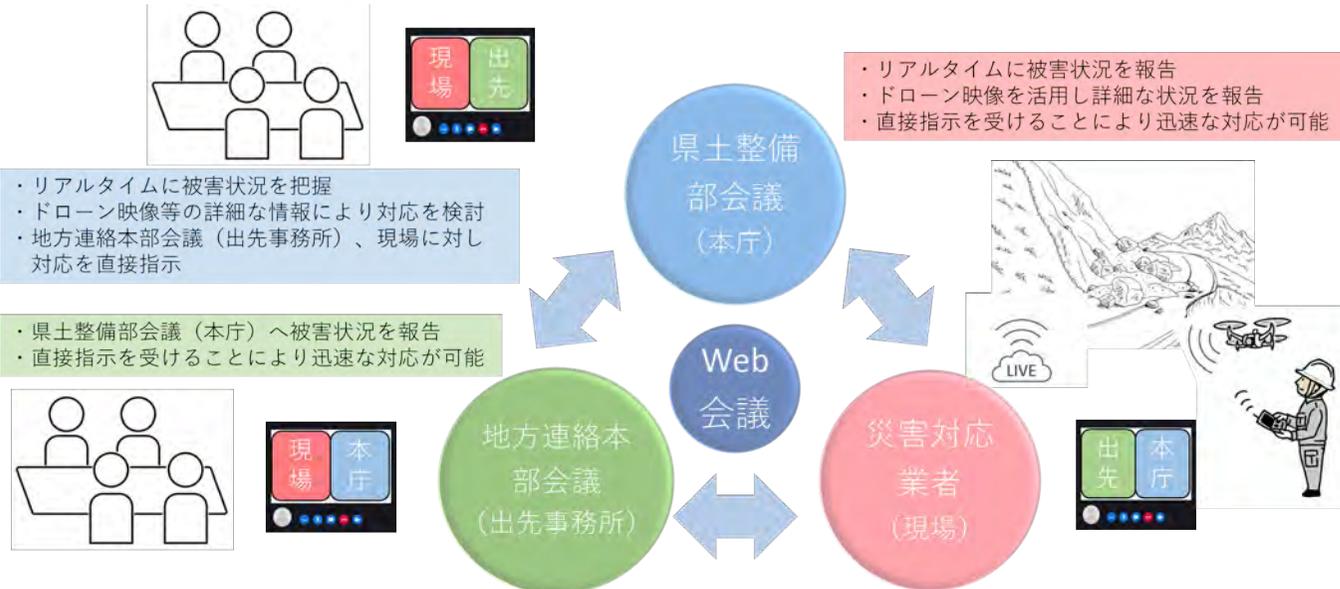
□新たな取組内容

①被害情報の迅速な把握

- ・県土整備部会議(本庁)と地方連絡本部会議(出先事務所)及び災害対応業者(現場)をWEB会議システムによりつなぎドローンを活用してリアルタイムで被害状況の報告を受ける

②応急対応の迅速な検討と指示

- ・被災現場からの映像をもとに県土整備部会議(本庁)において応急対応を検討
- ・県土整備部会議(本庁)と地方連絡本部会議(出先事務所)から災害対応業者(現場)に対し応急対応を指示



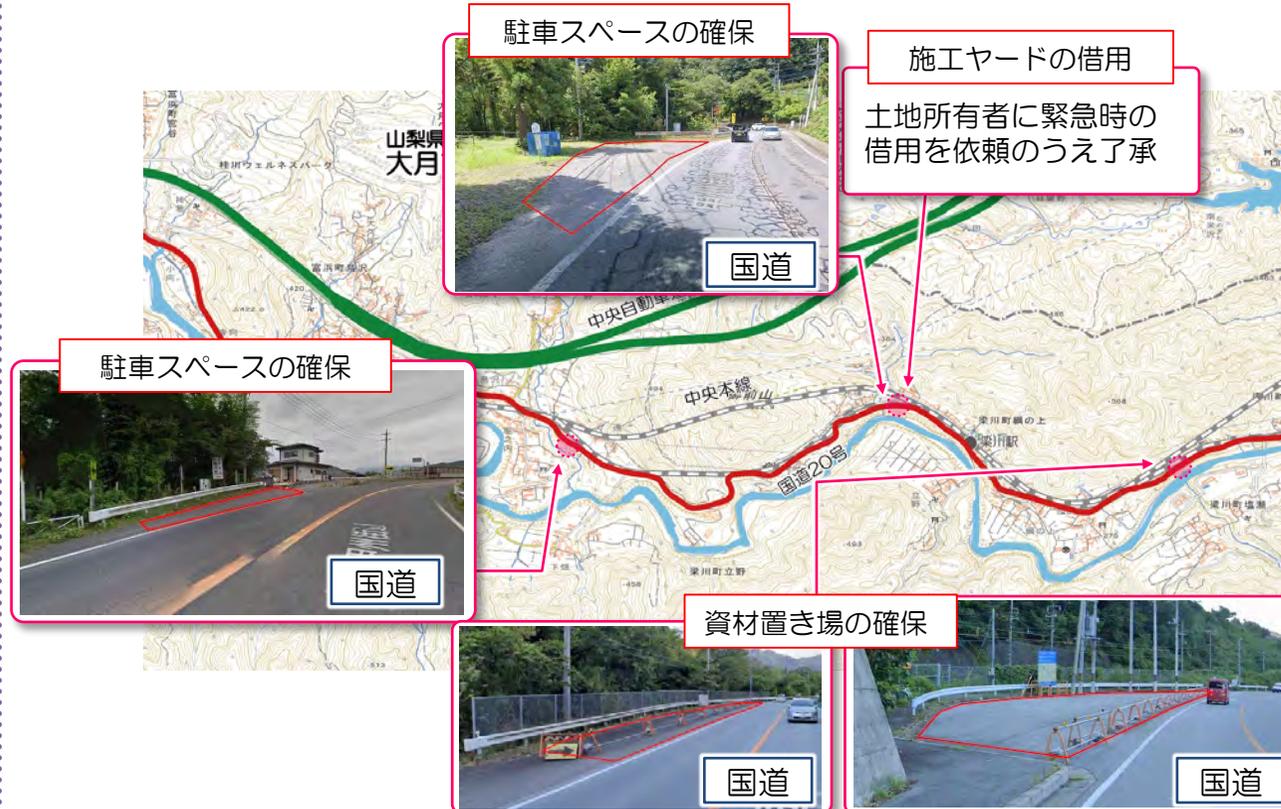
2 交通強靱化に向けた取り組み状況【報告】

B：復旧作業の効率化

(2) B：復旧作業の効率化

管理者間（鉄道⇔道路）の連携強化

■大月市内におけるアクセス箇所（道路⇔鉄道）の一例



- 鉄道不通時における迅速な復旧に向けて、国道20号から中央本線に進入が可能となる箇所を複数抽出。
- 上記箇所において、JR東日本が求める課題に対し、道路管理者が協力できる施策をとりまとめるうえ共有。



＜具体的な取り組み＞

- ◇ **鉄道と道路の接続箇所について、一覧表と図面に整理し、緊急時の対応を関係者で共有**
 - ・ 緊急時の連絡先（関係機関担当）
 - ・ 土地所有者への連絡先
 - ・ 接続箇所毎に詳細地図を整備
- ◇ 代替輸送の依頼先確認 など

- ・ 災害時のアクセス性の強化
- ・ 管理者間での情報共有による連携強化

復旧作業の効率化

2. 交通強靱化に向けた取り組み状況【報告】

C：災害発生時交通マネジメントの強化

2 交通強靱化に向けた取り組み状況【報告】

C：災害発生時の交通マネジメントの強化

(3) C：災害発生時の交通マネジメントの強化

□ 『国道20号等災害時交通マネジメント検討会』の取り組み

(設置目的)

災害時における道路の通行止め状況や渋滞状況、迂回路状況などについて、各道路管理者や関係機関等が円滑に情報共有し、国道20号等の人流及び物資等の輸送を確保するための交通マネジメントの検討を行うことを目的とする。

(主な検討内容)

- ①平常時から会議体制の構築 ②交通量の把握 ③渋滞状況の把握 ④通行止め区間の迂回ルートの調整
⑤情報提供手段 ⑥交通マネジメント対策等の検討

(実績)

- 令和元年10月15日
国道20号等災害時交通マネジメント検討会（第1回）
- 令和元年10月17日
国道20号等災害時交通マネジメント検討会（第2回）
- 令和2年8月・11月
災害時交通マネジメント検討会の地域防災計画への位置づけ
（8月：相模原市、11月：山梨県）



(メンバー)

- 有識者
- 道路管理者
国土交通省関東地方整備局、同相武国道事務所、同甲府河川国道事務所
東京都、神奈川県、山梨県、相模原市、中日本高速道路株式会社、
- 関係機関
国土交通省関東運輸局、関東管区警察局、警視庁、神奈川県警察本部、山梨県警本部、
東日本旅客鉄道株式会社、東京都バス協会、神奈川県バス協会、山梨県バス協会、
公益財団法人日本道路交通情報センター



2 災害時交通マネジメントの取り組み事例

C：災害発生時の交通マネジメントの強化

□ 『長野市篠ノ井地区交通マネジメント検討会』の取り組み事例

(設置目的)

令和3年7月6日、大雨の影響による長野市篠ノ井小松原地先の隣接地(犬戻トンネル松本側坑口付近)において発生した地すべりに伴う国道19号の交通規制による渋滞状況、迂回路状況等について各道路管理者や警察等が情報を共有し、周辺地区における円滑な人流・物流を確保するための交通マネジメントの検討を行うために設置

(主な検討内容)

①交通状況の把握 ②交通マネジメント対策の検討 ③情報提供 他

(実績)

- ・令和3年7月20日
長野市篠ノ井地区交通マネジメント検討会 (第1回)
- ・令和3年9月3日
長野市篠ノ井地区交通マネジメント検討会 [連絡会]

(メンバー)

- ・学識者
- ・関係行政機関
警察庁関東管区警察局、長野県警察本部、長野県、周辺市・村 (5市3村)
国土交通省関東地方整備局、同長野国道事務所
- ・関係機関
公共交通機関事業者、公益財団法人日本道路交通情報センター

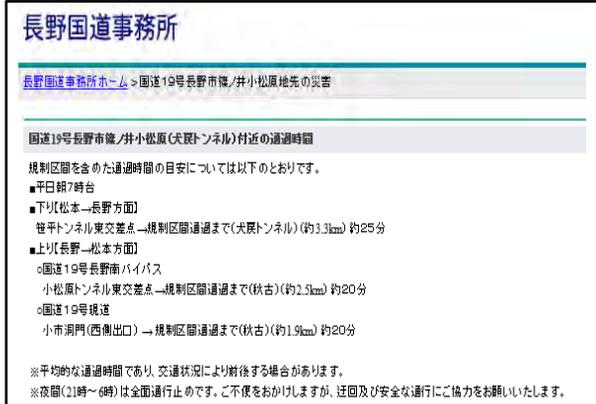
■ 位置図



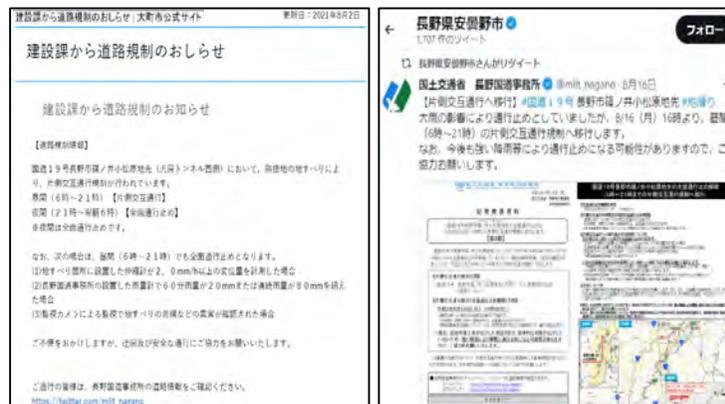
■ 取り組み事例

①交通規制などの情報提供

- ・長野国道のHPにおいて、主要交差点から規制区間までの所要時間目安のお知らせを実施



- ・関係行政機関のHPやSNSにおいて、国道19号の交通規制情報を発信



②管理者間で連携した情報板表示

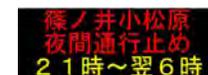
- ・長野国道事務所管理



- ・長野県管理



- ・長野県警管理

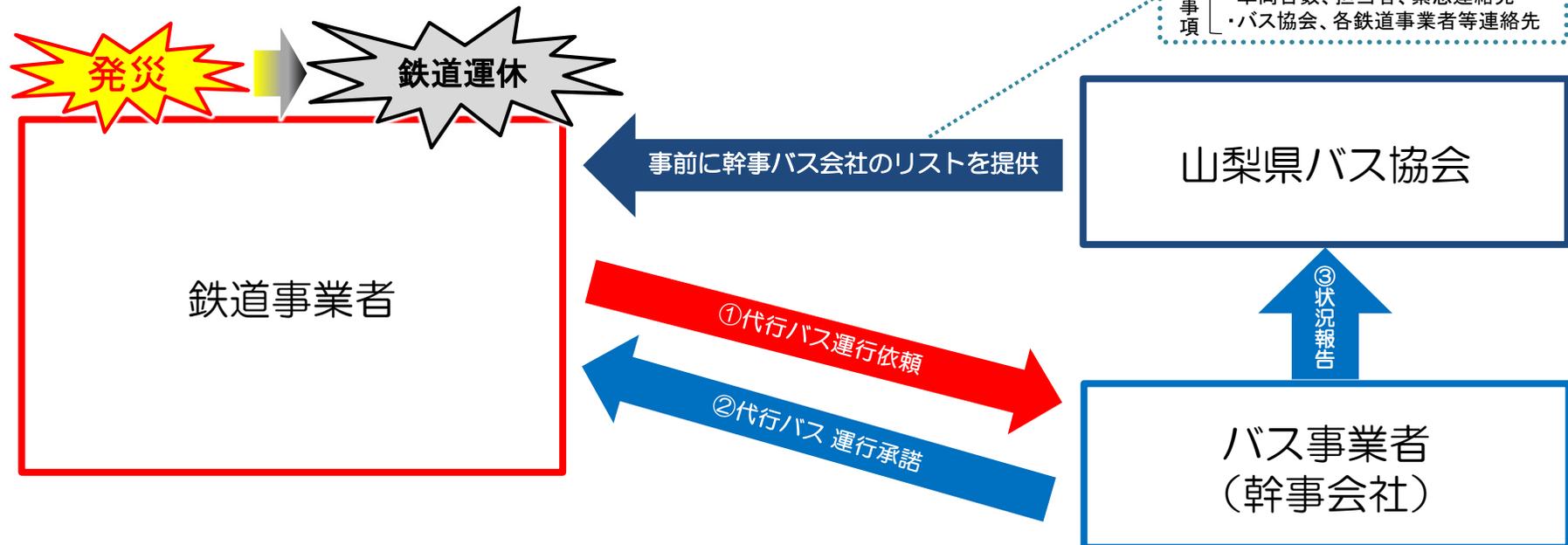


2 交通強靱化に向けた取り組み状況【報告】

C：災害発生時の交通マネジメントの強化

(3) C：災害発生時の交通マネジメントの強化

- 山梨県バス協会からエリアごとの幹事バス会社のリストを鉄道会社に事前に提供。
- 鉄道運休時、速やかに代行輸送が手配できるよう連絡体制を関係者間で共有。



□県防災情報システム操作研修の実施 (R4.8.5)

災害時における情報収集を円滑に行う手段として、県が運用している『山梨県総合防災情報システム』について、その概要を理解し、操作方法を習得する。
(外部向け研修会：JR東日本八王子支社出席)



□継続する取り組み

- ・実際の復旧作業を想定した訓練を実施
- ・大月市モデルを沿線の他自治体へ展開
- ・共有情報については、毎年のリバイス・内容の充実を図る

3. 今後の進め方

3 今後の進め方【議論】

論点①

「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」等を活用し、引き続き各管理者ごとに交通強靱化に向けたハード整備を推進。

現道局所対策

国道20号（新笹子トンネル改修等）	59 箇所
JR中央本線	7 箇所
中央自動車道（小仏トンネル付近渋滞対策事業等）	4 箇所
国道413号	23 箇所

※完了・設計中の箇所を含む

広域迂回

中部横断自動車道	下部温泉早川IC～南部IC R3.8.29開通
R138須走道路・御殿場BP （西区間）	須走道路・御殿場バイパス R3.4.10開通
新東名高速道路	伊勢原大山IC～御殿場JCT

【現道局所対策の復旧状況】



写真：国道20号 法雲寺橋の完成後



写真：中央自動車道 与瀬地区の復旧作業完了状況



写真：JR中央本線の復旧作業完了状況



写真：国道413号道路災害防除工事の施工後

東京～山梨・長野間の交通強靱化を進めていくために、
「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」等
必要な予算の安定的な確保が必要

3 今後の進め方【議論】

論点②

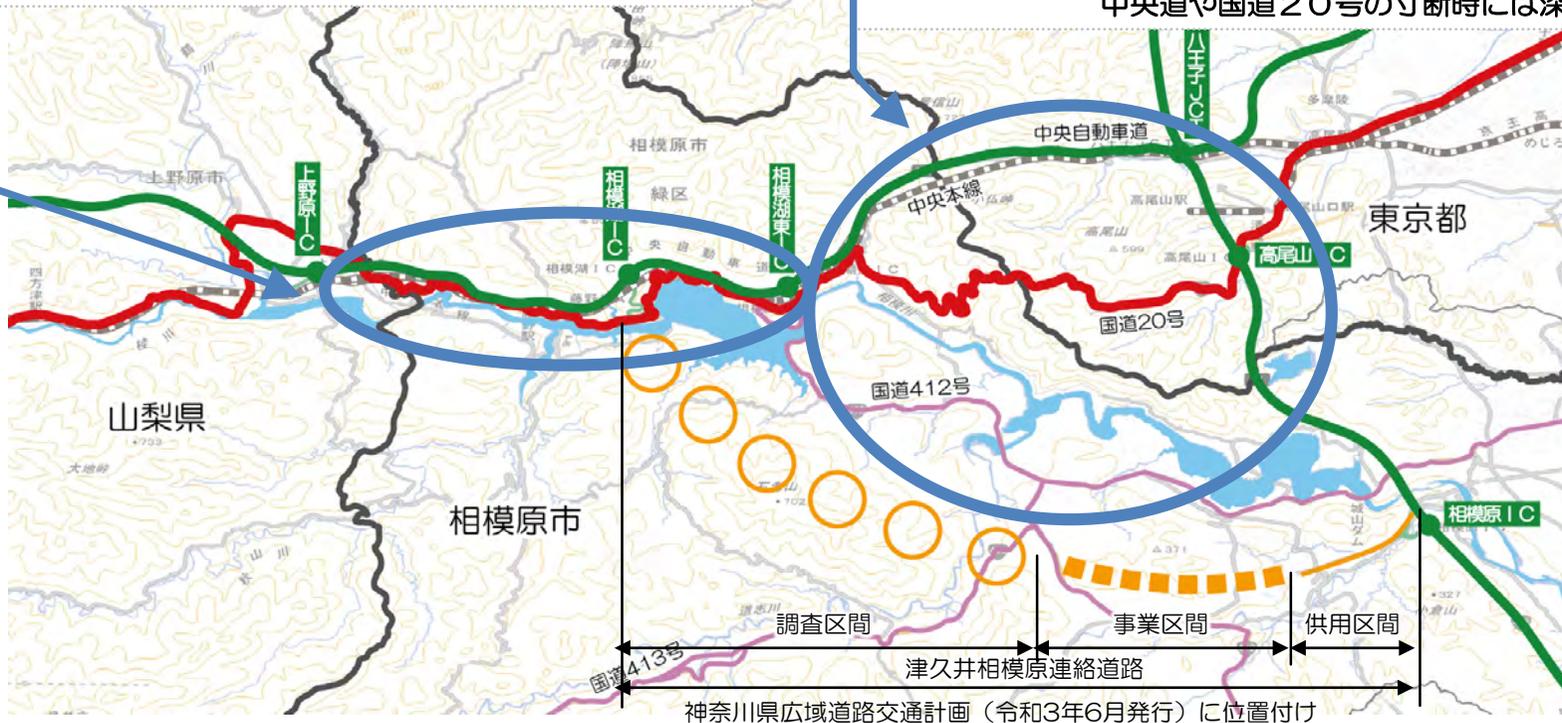
上野原～相模湖東は、国道20号、中央自動車道、中央本線が近接並走し、脆弱箇所が集中。相模湖東～八王子は、被災箇所や線形不良区間が多く、要対策箇所が多数存在。今後とも脆弱区間への抜本的な対策を推進。

●上野原～相模湖東

中央道 →土砂流入による被災箇所が集中
 国道20号 →耐震化や補修が必要な構造物や線形不良箇所が集中

●相模湖東～八王子

国道20号 →大垂水を中心に雨量通行規制や被災箇所が集中
 線形不良箇所も多数有り走行性に課題
 国道412号 →交通容量が十分でない
 中央道や国道20号の寸断時には深刻な渋滞が発生



集中する脆弱箇所への対策（現道の強靱化）と併せ、バイパス整備等によるリダンダンシーの確保が必要

3 今後の進め方【スケジュール】

		主な議論内容
令和2年 1月30日	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ○東京～山梨・長野の交通の現状 ○被災（通行止め）の原因把握 ○被災による各都県市への影響
令和2年 2月18日	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ○交通強靱化に向けた課題と論点の整理 ○取り組みの方向性の検討
令和2年 3月26日	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ○交通強靱化に向けた中間とりまとめについて ○今後の取り組み方針と検討体制（案）
<p>東京～山梨・長野 交通強靱化に向けた中間とりまとめ（R2.3）</p> <p>A. 脆弱箇所の強靱化 B. 復旧作業の効率化 C. 災害発生時の交通マネジメントの強化</p>		
令和3年 1月14日	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ○前回までの交通強靱化プロジェクト会議の振り返り ○交通強靱化に向けた取り組み状況 ○今後の進め方
令和4年 1月21日	第5回	<ul style="list-style-type: none"> ○交通強靱化プロジェクト会議の概要 ○交通強靱化に向けた取り組み状況 ○今後の進め方
令和5年 1月27日	第6回 (今回)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 交通強靱化プロジェクト会議の概要 2. 交通強靱化に向けた取り組み状況 3. 今後の進め方

令和5年度以降

**交通強靱化に向けて、各事業者は継続的に取組を実施。
事業者間の更なる連携強化により、プロジェクトを推進する。**



▲第1回



▲第2回



▲第3回



▲第4回



▲第5回